

各地で話題の病害虫

チューリップ褐色腐敗病

学名: *Pseudomonas gladioli*
Severini

近年貯蔵中および流通段階においてチューリップ球根に黒褐色不整形の病斑を形成し腐敗させる病害が発生して問題になっている。このような病害としては、従来から黒腐病が知られているが、富山県農業技術センターの調査の結果、本病は *P. gladioli* による「褐色腐敗病」であることが判明した。



富山県野菜花き試験場 守川俊幸氏提供

本病は黒腐病と同様収穫貯蔵された球根に7月上旬頃から散見され、それ以降発生が目立ってくる。病徴は球根の傷口や分離痕に中心部がややくぼんだ黒褐色不整形の小病斑が現れ、これが次第に拡大すると中央部が乾燥して陥没し、外皮上から指で病斑の存在が容易に確認できるようになる。

本病菌の存在は、チューリップの重要病害である球根腐敗病菌(フザリウム菌)の枯坑細菌を探索中に偶然発見されたもので、接種試験によるとチューリップの他、グラジオラス、トマト、カボチャなどにも病原性が認められている。

防除対策としては、り病球の除去が有効であるが、本病については未解明のところがあり、より効果的な防除法の確立が待たれる。

ハクサイピシウム腐敗病

学名: *Pythium ultimum*
Trow var. *ultimum*

昭和60年頃から、ハクサイの産地で菌核病と考えられる症状が発生し、菌核病を対象に防除がなされたが、防除効果が低く問題となっていた。

このため、長野県野菜花き試験場が調査した結果、ピシウム腐敗病であることが確認された。

本病ははじめ、地際部の土壌と接触した葉柄の外側から腐敗が発生し病斑部は水浸状になり、多



長野県野菜花き試験場 清水時哉氏提供

湿時には白色綿毛状の菌そうを生じる。病状が進むと葉柄の内側にも菌そうが現れ葉はしおれて、容易にちぎれるようになる。

このように病徴は菌核病や軟腐病とよく似ているが、菌核病の菌そうは非常に密なこと、また軟腐病は組織の崩壊を伴ない特有の異臭があることから診断が可能である。

本病菌の生育適温は25~30℃と比較的高温であるため、平地では発生が多いが高冷地では少ないと考えられる。

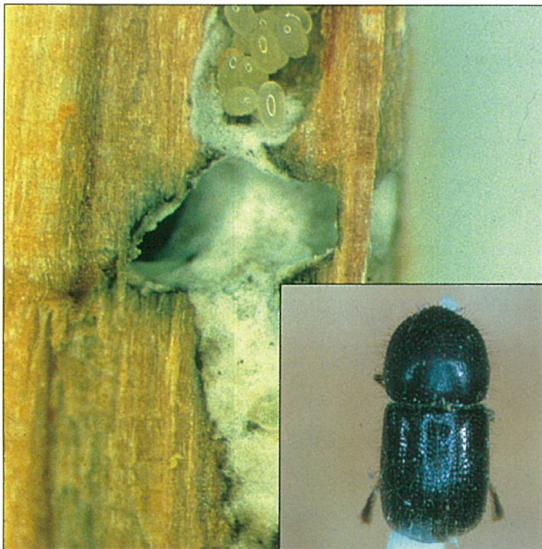
防除対策としては密植を避け、株間、うね間を十分とり風通しをよくし株元がむれないようにすることと、ほ場の排水対策を講ずることが大切である。

リンゴの枝幹を加害する キクイムシ類

リンゴの枝幹害虫として古くからキクイムシ類の被害が報告されていたが、その被害は小さく栽培上はほとんど問題になっていなかった。

しかし、近年になってリンゴのわい化栽培が普及するに伴い、外見上では正常と思われる樹にも被害が発生している。また、昨年の台風により樹勢が衰弱していることから被害の拡大が心配されている。

現在までリンゴで発生が確認されたキクイムシ



秋田県果樹試験場鹿角分場 大隅専一氏提供

(アンブロシアビートル) 類は未記録種を含む14種類で、このうち秋田県内ではカシワノキクイムシ、ハンノキクイムシ、ニレザイノキクイムシ、リンゴザイノキクイムシ(仮称: 新種として発表される予定)、サクセスクイムシ、タイコンクイムシの6種類が確認されている。被害はハンノキクイムシとリンゴザイノキクイムシの2種が大部分を占めている。

防除対策は、被害枝は適正な防除を行い、回復の見込みのない樹は早めに伐採し焼却する。健全な樹を作り樹勢を衰弱させないことが大切である。また、腐らん病を放置しておくとう食入が増えるので、病斑部分を削り取り殺菌剤を塗布する。

ミカンナガタマムシ

学名: *Agrilus auriventris* E. Saunders

英名: flatheaded citrus borer

本種はカンキツ類栽培地帯の一部地域で、老木や樹勢の弱った木に僅かながら被害を与えている程度で、昭和50年代は発生密度が減少傾向にあった。しかし、昨年の相次ぐ台風の来襲によって、山口県ではこれまで未発生地域で本種の発生が確認されるなど、その被害の拡大が心配されている。

本虫は年1回発生し、成虫は主に6~7月に見られ、カンキツ類の葉縁をのこぎり状に食害する。



山口県病虫害防除所 佐々木博之氏提供

卵は、枝や幹のひび割れや、ささくれた樹皮に数個ずつ産み込まれる。ふ化した幼虫は樹皮下の木質部表面に孔道を作り食害し、樹皮表面はひび割れて樹脂が出てくる。

防除対策は、被害樹の伐採や被害枝の剪定をして焼却する。台風の被害による日焼け防止のため石灰乳の塗布や根の乾燥防止、寒風害対策などを講じて樹勢の維持強化を図る。また、成虫脱出防止として5月中旬~下旬に食入樹の被害部分と周辺部に NAC 乳剤または水和剤を散布するか、MEP 乳剤を塗布する。

成虫防除として、6月と8月の2回を NAC 乳剤または水和剤を散布する。